

第3課題 教育環境整備に関する課題

研究主題「地域社会とつながり地域人材を活用した学習活動を進めるための教育環境整備」

西都支会

1 主題設定の理由

これまで西都市では、「連携型」や「一体型小中一貫教育校の設置」を実践しており、学校・地域の実状、地理的条件などに即した一貫教育を発展・推進している。

現在、西都市内に中学校は6校あり、そのうち3校は一体型小中一貫教育校である。

こういった現状において、魅力ある授業づくりや学校行事・学校運営のために、家庭及び地域社会との連携が必要となり、教頭は、教職員と保護者を含む地域人材の相互理解を基盤とした協働体制のパイプ役となる必要がある。

さらに、地震や自然災害に対して学校としての防災体制や、学校事故への対処、施設などの安全管理に関する重責も担っている。

以上のことから、教頭が教育環境整備のためのリーダーシップを発揮することが「地域とつながる学校」実現につながると考え本主題を設定した。

2 研究のねらい

地域社会とつながり地域人材を活用した学習活動を推進することで、学校と地域との協働を推進する。

3 研究の概要と成果

(1) 研究内容

- ① P T A活動の在り方と連携について
- ② 地域人材の活用と組織体制づくりについて
- ③ 地域社会とのつながりと地域の教育力の向上について

(2) 各校での取組

① P T A活動の在り方と連携について

【三財小中学校の取組】

○ 「参観日におけるステージ別懇談会」

施設一体型小中一貫校として9年目を迎え、本年度からステージ制を導入し、小学部1～4年生を「ジュニアステージ」、5年～中学部1年生を「ミドルステージ」、中学部2～3年生を「トップステージ」として、ステージ別集会等の校内行事を実施している。各ステージ主任を校務分掌に位置づ

け、ステージ部会（職員会議）を定期的実施している。

○ 教頭としての関わり

P T A役員等と事前協議を行い、懇談会の趣旨や会の進め方、話合いのテーマの持ち方などを説明している。学校評議員にも参加案内を発送し、事後アンケートによる評価をもらう。本年度初めての取組であったが、好評につき今後も継続していけるようにP T A役員等と協議している。

○ 成果

各学校の地域人材の活用の状況やP T A活動内容について情報交換が図れるようになり、参観日では、ステージごとに保護者が集まり意見交換を行う「ステージ別懇談会」を実施した。異学年の保護者との交流を通して子育て等の情報交換を行い、保護者からも「有意義である」と評価をもらった。

【銀鏡中学校の取組】

○ 「P T A役員会への全教職員の参加」

月1回開かれるP T A役員会では、学校行事や「川遊び」「農業体験」などの地域連携行事の打合せを行う。山村留学の里親が保護者として参画し、実親と連絡をとり、事前準備や当日運営の協力体制を保っている。全職員がP T A役員会に参加し、地域行事のコーディネーターとして機能している。

○ 教頭としての関わり

里親を含む地域人材が高齢となり、企画・運営に負担感が増しているのが現状である。地域住民との相談等を経て、神楽や舞いなどの伝統芸能の練習日程を調整し、企画・運営が困難な場合は、任意団体「東米良創生会」の協力を仰いでいる。

○ 成果

山村留学制度に加えて、地元企業の従事者による「家族留学制度」も導入され、若年労働層が増えるとともに、「東米良創生会」を中心とした、就学前児童の教育体制が整いつつある。

② 地域人材の活用と組織体制づくりについて

【穂北中学校の取組】

○ 「生徒が主体となる地域伝統文化の継承活動」

国選定無形民俗文化財「下水流臼太鼓踊」は、踊り手などの高齢化や継承者不足、神籬の修繕費用などが課題となっている。本校では、生徒が主体となる実行委員会を構成し、臼太鼓踊保存会の方の指導を仰ぎながら、体育大会や地域のまつりでの披露に取り組んでいくことにより、伝統文化継承と後継者の育成を図っている。

○ 教頭としての関わり

体育大会での披露に向けた踊りの練習を行うにあたり、下水流臼太鼓踊保存会の会長等と連絡を取り、練習日程の調整や指導・助言の依頼を行っている。

また、地域のまつり等における保存会の方々による踊りを積極的に見学し、舞踊練習の指導・助言に対する御礼を丁寧に行っている。

○ 成果

3年生を中心とした生徒主体の実行委員会を中心に、保存会の指導助言をいただきながら練習を重ねていくことが伝統となり、教職員が異動で入れ替わっても、伝統文化を継承していく体制が整えられている。

【妻中学校の取組】

○ 「妻中応援団による門松づくり」

保護者及び教職員で組織される「妻中応援団」が中心となり、毎年12月に門松づくりを行っている。地域の協力者から竹を譲り受け、「妻中応援団」伝承の方法で門松をつくり、学校正門前に飾りつけて新年の到来を祝う。

○ 教頭としての関わり

過去に生徒指導が困難な時期があり、教頭主導のもと、保護者と教職員が協力して、学校の秩序回復に取り組むべく発足した「妻中おやじの会」が応援団の前身となっており、その理念を継承している。

○ 成果

保護者の学校への参画意識が高まることで、学校に落ち着きが生まれ、奉仕作業や門松づくりの活動を通して学校に潤いを与えてもらっている。

③ 地域社会とのつながりと地域の教育力の向上について

【都於郡中学校の取組】

○ 「農業体験学習の取組」

昨年度から計画されていた都於郡地区内の農業体験学習を現在計画している。

7月の実施を計画していたが、新型コロナウイルス感染の拡大等で11月の実施で現在調整を行っている。ほとんどの生徒にとって、農業体験は初めての経験であり、地域理解と郷土愛を育てる機会となるように考えている。

○ 教頭としての関わり

P T A 役員の協力を得て、地元 長園地区の大根農家と連絡を取り、農業体験学習に関する期日と時間、準備物等について事前の打合せを行い、全校生徒を対象に担任と連携しながら進めている。

○ 成果

貴重な地域の農業体験の機会を得ることができ、地域の方々と接することで、郷土を愛する気持ちや地域の経済活動の基盤である農業理解を深めることができる。

【三納小中学校の取組】

○ 「地域一体 みのう元気 未来フェスタ」

児童生徒と地域が連携し、一体となった文化祭を毎年開催している。小学部が楽器演奏・群読、中学部が英語暗唱・合唱を発表する。地域からは演劇・合唱・芸能発表を行う。午後には「せんぐまき」や「お楽しみ抽選会」が行われ、地域の方々と児童生徒一体となった「三納音頭」を踊る。

○ 教頭としての関わり

実行委員会に毎回参加し、日程調整や発表内容の確認、役割分担や当日の進行マニュアルを作成する。当日は舞台裏での放送機器を担当や来賓接待などにあたる。マニュアルのおかげで、地域の方々が、前日準備や当日運営を大変効率的に行うことができている。

○ 成果

地域の高齢者は、小中学生と一緒に活動することに喜びを感じている。また、地域の組織と連携を密にすることで、学校の現状を理解してもらい、学校に対する地域の思いを共有することができる。さらに、登下校の見守り活動や学校行事等にも積極的に協力してもらったようになった。

4 今後の課題

特に地域伝統文化の継承には、指導者の長期的な育成が重要である。教頭自らが「子どもは地域の宝」であると意識を忘れず、持続可能な地域・学校づくりの中核として関わり続ける必要がある。